

令和2年2月27日

愛南町議会
議長 内倉 長藏 殿

総務文教常任委員会
委員長 佐々木 史仁

所管事務調査報告書

総務文教常任委員会の所管事務の調査を実施したので、愛南町議会会議規則第76条の規定により、その結果を下記のとおり報告いたします。

記

《第1回》

- 1 日 時
令和元年11月8日（金）午後1時30分から
- 2 開催場所
議員協議会室
- 3 出席委員
佐々木史仁、金繁典子、濱本元通、宮下一郎、土居尚行、西口孝、
原田達也、内倉長藏
- 4 欠席委員
なし
- 5 調査事項
町内公民館の現状調査と将来の在り方及び、公民館を核とした地域課題
解決への取組みに関する調査・研究
- 6 説明員の職氏名
生涯学習課長 清水雅人、同課長補佐 山下裕凡
内海公民館長 西口源一、平城公民館長 猪野博基、
城辺公民館長 吉田英史、一本松公民館長 尾崎弘典、
西海公民館長 吉田潤一
- 7 調査内容
初めに清水生涯学習課長より公民館の各種事業の説明と今後の取組み
について説明あり。その後各地域での特徴的な事業や今後の取組みに
ついて各地域の公民館長より説明を受ける。
委員からは、館長・分館長・主事の合同の研修会や管理運営についての

質疑のほか、公民館主催の運動会等町民の一体感を上げるような活動は考えていないのかなどについて、各公民館長から現状や意見を聞く。

その後、本調査を継続審査とし、年明けに先進地視察を行うことを決定。なお視察先については、正副委員長が検討し次回報告することとした。

《第2回》

1 日 時

令和元年11月27日（水）午後1時から

2 視 察 地

長月公民館、緑公民館、菊川公民館

3 参加者

委 員 佐々木史仁、金繁典子、濱本元通、宮下一郎、土居尚行、西口孝、原田達也、内倉長藏

随 行 生涯学習課長 清水雅人、同課長補佐 山下裕凡

及び説明 平城公民館長 猪野博基、城辺公民館長 吉田英史

4 調査事項

町内の公民館の現状と取り組みについて、長月公民館、菊川公民館及び緑公民館を調査した。

今回活発に活動を行っている公民館の現状を見てきたが、分館等についても後日状況調査を行う旨決定。

また先進地視察については、1月に島根県浜田市と邑南町の公民館活動を調査に行くことに決定。

《第3回》

1 日 時

令和2年1月15日（水）午後1時30分から

2 視 察 地

東海公民館中玉分館、上大道公民館、一本松公民館広見分館

3 参加者

委 員 佐々木史仁、金繁典子、濱本元通、宮下一郎、土居尚行、西口孝、原田達也、内倉長藏

随 行 生涯学習課長 清水雅人、同課長補佐 山下裕凡

及び説明 城辺公民館長 吉田英史、一本松公民館長 尾崎弘典

4 調査事項

東海公民館中玉分館、上大道公民館及び一本松公民館広見分館の活動や分館長・分館主事の状況等含め現地調査を行った。

《第4回》

1 日 時

令和2年1月23日（木）～24日（金）

2 視 察 地

島根県浜田市、邑南町

3 参加者

委 員 佐々木史仁、金繁典子、濱本元通、宮下一郎、土居尚行、
西口孝、原田達也、内倉長藏

随 行 生涯学習課 課長 清水雅人
議会事務局 局長補佐 大間知伸一

4 視察内容

本町の公民館活動の一助とするため、特色ある公民館活動を行っている島根県浜田市と邑南町の公民館の活動状況等視察した。

まず島根県として、県単独補助金など社会教育に対し、限られた人材と予算の中で最大限の効果を発揮できるような体制づくりを行っている。



浜田市では、「はまだっ子^{ともい}共育プロジェクト」を3年前から取り組んでいる。大人と触れる機会が少なくなった今、人との触れ合いを大切にし、その中で子供たちは「生き方を学び、生き方を考える」ことのできる環境づくりが公民館のあるべき姿と位置づけ、特色ある事例発表があった。

邑南町では、「ふるさとを学び、人と文化を育む心豊かなまち」を目指し、魅力ある地域を支えるリーダーの育成を行っている。また邑南町は全国的にも珍しく、すべての館に正規職員を主事として配置し、主事が変わっても統一的な方向性を持たすためのPDCAを踏まえた評価・点検ができるよう年次計画を作成し公民館活動推進協議会総会において承認している。

持続可能なまちづくりのためには、行政への依存型の取り組みから当事者意識の取り組みへの変容を目指すため、地域人材の掘り起こしや人と人を繋ぐ機能を公民館が担う。公民館活動を活性化させるためには、当事者意識を持てる人材育成や携わる職員の仕掛けが必要との取り組み事例あり。

《第5回》

- 1 日 時
令和2年1月31日（金）午後3時15分から
- 2 開催場所
議員協議会室
- 3 出席委員
佐々木史仁、金繁典子、濱本元通、宮下一郎、土居尚行、西口孝、
原田達也、内倉長藏
- 4 欠席委員
なし
- 5 調査事項
町内公民館の現状調査と将来の在り方及び、公民館を核とした地域課題
解決への取組みに関する調査・研究
- 6 説明員の職氏名
生涯学習課長 清水雅人、同課長補佐 山下裕凡
- 7 調査結果報告（まとめ）

愛南町が合併して15年が経過しているが、公民館の体制としては、合併前の形態をほぼ引き継いでおり、見直しがされていない状況にある。

今回、町内の公民館の現状を調査し、これからの公民館のあるべき姿・方向性を調査・研究した。

本町の公民館（本館）は、各（旧）小学校区に1施設で、町内に20施設あり、内海・一本松地域を中心に16施設が施設されている。

本館は、町の予算をもとにそれぞれの地域内（旧小学校区単位）で、様々な講座や学級の開設、文化祭等活動成果の発表の場として運営している。

一方一部の地域では、公民館に複数の分館をもち、主に地区の集会所等を利用してコミュニティセンターとしての役割を果たしている。中には地区からの助成金を活用しながら事業を展開しているところもあり、分館の事業負担はさまざまであるが、その大半が地元の祭り等の催しに係る経費で、分館を持たない公民館区では、それぞれの催し等は関係団体が経費を負担し運営している。

今回、県をあげて特色ある公民館運営を展開している浜田市、邑南町を視察して感じたことは、公民館が中心となって、まちづくり、人づくりに力を入れており、地域の拠点として活動をする上で各公民館に正規職員の主事を配置していることや、PDCAサイクルを踏まえた評価・点検の充実や各公民館の事例研究等向上を図り、スキルアップを図るとともに地域にあった特色ある活動を行っている。

本町においても、今後ますます高齢化が進む中、行政への依存型の従来の公民館の在り方ではなく、当事者意識を持った取り組みを目指し、魅力ある地域人材の掘り起こしや人と人を繋ぐ機能を公民館が担い、魅力ある

公民館活動を図るため、公民館相互の連携と更なる意識改革に努めてもらいたいと強く望む。

そのためにも、配属される公民館職員の役割は重要であり、その職員の資質により左右されるため、公民館においては、職員の力、職員が果たす役割は大である。

公民館には、社会教育主事や地域をコーディネートする資質のある人材の配置として、「地域のことを知っている人」「地域のことがよく見える人」「地域に入っていける人」「人づくりの視点を持てる人」「人が活躍できる場を確保できる、創り出せる人」「情報発信、情報収集ができる人」が挙げられる。このような人材をどのように育成していくかが行政の大きな使命と強く感じた。

また、今後の公民館の役割として、高齢者支援、引きこもり対策等地域が抱える様々な問題を、地域が一体となって考える「よろず相談所」的な機能も持つべきとの意見もあった。

最後に、委員会で各公民館を視察し、現場の状況や職員を知り、様々な視点で議論をすることができ、改めて公民館が地域にとって必要不可欠な施設であることを強く感じた。

以上、総務文教常任委員会の意見を集約した調査結果報告とする。